

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

345号

2019年11月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

保守野党・保守言論・政治検察による三位一体となった 曹国法務部長菅攻撃を乗り越えて、 検察改革を皮切りに積弊清算を実現しよう！

日本の法務大臣は誰かと聞かれて答えられる人がどれほどいるだろうか。一方で「たまねぎ男」と揶揄された韓国の法務部長官曹国(チョ・グク)氏はあまりにも有名だ。

曹国氏は8月9日、大統領府で文在寅(ムン・ジェイン)大統領によって法務部長官候補者に指名された後、「誓海盟山」と語った。「海と山に誓う」という意味で、壬辰戦争(文禄・慶長の役)の時、李舜臣(イ・スンシ)将軍が倭敵を打ち破るという意志を込めて詠んだ詩に登場する。彼が李舜臣の詩まで取りあげて誓ったのは「公正な法秩序の確立、検察改革、法務部の革新」だった。生涯進歩的な観点で法を学び教えてきた曹国候補者が、法務部長官となって繰り広げる新しい法行政への期待が大きかった。

しかし、人事聴聞会を前にして、李明博(イ・ミョンバク)・朴槿恵(パク・クネ)など歴代独裁政権の流れをくむ保守野党、自由韓国党と朝鮮日報をはじめとした保守言論は、連日連夜、曹氏の娘の入試関連疑惑や家族の私募ファンド投資関連疑惑などを取り上げて曹候補者に対する一斉攻撃を開始した。保守野党と保守言論による文在寅政権攻撃は今に始まったことではないが、あろうことか検察がこの曹国攻撃の先頭に立ったのだ。人事聴聞会を前にして検察は10か所に対する強制捜査を行った。この強制捜査によって「疑惑」は一挙に「真実」として国民に印象付けられることになった。

その後も捜査は拡大し強制捜査の対象は、2か月間で70か所にも及んだ。この保守野党・保守言論・政治検察の三位一体となった曹国攻撃によって政権支持率は下落の一途をたどり10月初旬には41%の最低値を記録し、政権与党の支持率も自由韓国党と誤差範囲にまで下落した。このような状況を前にして、曹国法務部長官は、検察改革の細部施行案を発表した直後の10月14日、「これ以上、私の家族のことで文在寅政権に迷惑

はかけられない」として就任1か月余で辞任したのだ。

映画「弁護人」や「1987」で描かれているように、歴代軍事独裁政権下で政権高位層の不正腐敗を徹底して隠ぺいする一方で、拷問捜査に基づいて片っ端から民主人士を獄中に追いやってきたのが韓国の政治



▲曹国守護、検察改革を訴える韓国民衆

検察だ。独裁政権と結託して悪事をほしいままにした検察官は、誰一人処罰されることなく現在も要職に君臨している。自由韓国党の党首黄教安(ファン・ギョアン)もその一人だ。

検察改革・言論改革・自由韓国党解体を掲げて検察庁前で再びキャンドルを掲げた韓国民衆は、曹国辞任を契機に検察改革をはじめとする積弊清算を立法化によって実現するため国会議事堂前に場所を移してキャンドルデモを行うことを決定した。キャンドル革命の命運をかけた闘いに、日本の地から力いっぱい声援を送ろう。(金五)

秋空の下、焼肉で親睦と交流を深める 韓統連大阪本部秋季野遊会

韓統連大阪本部主催で「10・4宣言発表12周年記念 秋季野遊会」が10月27日(日)、淀川河川公園(大阪市旭区)で開かれた。



▲乾杯挨拶を行う金隆司代表委員

野遊会では、金隆司(キム・ユンサ)韓統連大阪本部代表委員から乾杯挨拶が行われ、その後、参加者は七輪を囲み焼肉を食べながら親睦と交流を深めた。

続いて、盧武鉉大統領と金正日国防委員長との間で交わされた「10・4宣言」発表12周年を記念し、孫啓榮(ソン・ゲヨン)本部常任委員から「10・4宣言」クイズが進行された。クイズでは10・4宣言に明記された合意事項に関するクイズなどが出題され、雰囲気は盛り上がり、最後は記念写真を撮って終了した。

統一されれば、人や物の自由往来ができ 大きな未来が開ける

韓統連生野支部シリーズ学習会②

韓統連生野支部主催のシリーズ学習会の第2回「ウリナラ2000年ロマン ウリナラの地理・風土～秘められた可能性、不条理な境界線」が10月13日(日)、韓統連生野支部で開かれた。

学習会では初めに、司会を担った金昌範(キム・チャンボム)生野支部代表委員から「今日の学習会の趣旨は朝鮮半島が統一されれば、どんな未来、可能性があるのかを知ってほしいことです」と語った後、金正樹(キム・ジョンス)生野支部組織次長が済州島について報告を行った。

金組織次長は▲済州島は3世紀～15世紀まで耽羅(タンラ)国という独立国であったこと。▲1945年の解放後、南側だけの単独選挙に反対し

て4・3蜂起が起こり、多くの島民が虐殺されたこと。▲現在では、江汀(カンジン)村に韓国政府が海軍基地の建設を進めており、村民などが建設反対の闘いを行っていることなど、歴史と島民の闘いなどについて報告を行った。



▲統一された朝鮮半島の未来を語る孫啓榮副代表委員

続いて、孫啓榮(ソン・ゲヨン)生野支部副代表委員が朝鮮半島の地理などについて報告を行った。孫副代表は、▲朝鮮半島の北側には銅・亜鉛をはじめ鉱物資源や松茸・魚介類などが豊富であること。▲京義線・東海線など現在途絶えている南北をつなぐ路線が連結されれば、人や物が南北を往来することができ、そこには大きな可能性が秘められていることなどが報告された。

報告後は、活発な質疑討論が進行され、第2回学習会は終了した。

韓国民衆は反日ではなく、反安倍！ 日韓平和連帯報告会

日韓平和連帯のメンバーを中心に「コリア国際平和フェスティバル」などに参加するため、8月14日～16日までソウルを訪問し、その活動の成果を共有するため「2019 8・15コリア国際平和フェスティバルに参加しました！訪韓報告会(主催：日韓平和連帯)」が10月16日(水)、エルおおさか(大阪府中央区)で開かれた。

報告会では、8・15訪韓団団長(日韓平和連帯共同代表)の山元一英さんが主催者挨拶を通じ「この間の日韓関係を考えると訪韓することが心配だったが、韓国の人々は“反日ではなく、反安倍です”と歓迎してくれました。今日の報告会を通じ訪韓の成果を皆で共有しましょう」と語った。

次に、最近の朝鮮半島情勢について、金昌五(キム・チャンオ)韓統連大阪本部副代表委員が報告を

行った。金副代表は、10月5日に開かれた朝米実務協議について「朝米実務協議は決裂した。しかし、今年末までに米国が態度を変えないと、朝鮮はグアム、ハワイを目標にしたミサイル発射実験を実施する可能性があり、そう考えると米国は態度を変え、年内に朝米首脳会談開催の可能性はある」と語った。



▲感想を語る訪韓団メンバー

続いて、訪韓団のメンバーである永久のり子さんから、スライドと動画を活用した訪韓団活動報告と各団員から感想が語られた。活動報告では8月15日は雨天の中、様々な行事に参加して韓国民衆と共に「反安倍」などを訴えたことなどが報告されるとともに、団員からの感想では「8・15行事に参加して、感動と力を与えてもらった」、「若い世代の人たちが先頭に立って行動しており、頼もしく感じた」などの感想が述べられ、最後に8・15訪韓団顧問(日韓平和連帯顧問)の永久睦子さんが閉会挨拶を行い、報告会は終了した。

安倍政権は軍拡を中止しろ！

とめよう戦争への道 2019関西の集い

韓統連大阪本部も実行委員会構成団体として参加して毎年開催している「とめよう戦争への道、めざそうアジアの平和2019関西のつどい(主催:同実行委員会他)」が10月20日(日)、エルシアター(大阪市中央区)で開かれた。

つどいでは、大阪平和人権センター理事長の米田彰男さんが主催者挨拶を行った後、講演①として「日米地位協定の抜本の見直しを」をテーマに衆議院議員の屋良朝博(ヤラ・トヒロ)さんが講演を行った。屋良さんは講演の中で「日米地位協定の抜本的な見直しで重要なのは、日本の主権・管理権があるかどうかだ」と指摘した。

そしてイタリアと米国との関係を例にしながら

「イタリアの場合、国内で米軍機の墜落事故などが起こった場合、イタリア政府が真っ先に事故調査などを行うが、日本政府は米軍の報告を受け入れるだけだ。日本政府が米国に主権・管理権をしっかりと主張しなければならない」と訴えた。



▲講演を行う半田滋さん

続いて講演②として「安保法制下の大軍拡を問う」をテーマに東京新聞論説兼編集委員の半田滋さんが講演を行った。半田さんは初めに「安保法制が施行されて3年半が経過し、まだ自衛隊はどこにも派遣されていないが、それは米国が戦争をしていないため」と述べ、米国が戦争を起こせば自衛隊も動員される危険性を指摘した。

次に、日本の防衛大綱の推移を解説して「特に昨年の防衛大綱では“多角的統合防衛力”の構築としながら、安倍政権は専守防衛を放棄し、米国からの武器を大量購入するなど軍拡を進めている」と述べるとともに、「憲法9条、専守防衛を守る運動を拡大させよう」と語った。

講演後は、政党挨拶と連帯アピールが行われ、崔誠一(チェ・ソウル)韓統連大阪本部事務局長が韓日関係に関するアピールを行い「現在、韓日関係は最悪の状態と言われているが、その原因は過去の歴史を正しく見ようとせず、排外主義を煽る安倍政権にある。今こそ韓日民衆が連帯して反安倍政権の声を上げよう」と訴えた。その後、集いでは行動提起などが行われ終了した。

終了後、参加者はデモ行進を行い「戦争をしたがる安倍政権退陣」「辺野古に絶対基地を作らせない」などのスローガンを叫び、道行く人々に訴えた。

「統一実感」 ～今こそ青年が統一新時代の主人公に～

李俊一（イ・チュニル）韓青中央本部副委員長

韓青・朝青・学生協・留学同などで構成する6・15青年学生協議会が10月6日、9月ピョンヤン共同宣言1周年、10・4宣言12周年記念行事「統一実感」を開催しました。この行事に参加した、李俊一韓青中央本部副委員長に行事報告を書いて頂きました。

10月6日、韓青・朝青・留学同などで構成する在日同胞青年学生の統一運動機構「6・15青年学生協議会」は、神奈川県で9月ピョンヤン共同宣言1周年、10・4宣言12周年記念行事「統一実感」を開催しました。本行事は2018年の大転換期以降、祖国統一にむけて進み続ける朝鮮半島の情勢を在日同胞青年学生が正しく理解し、統一新時代の主体者としての決意を共有していこうという趣旨で開催されました。

今回の行事の最大の目玉は、6・15南側委員会青年学生本部のメンバーが参加し、在日同胞と統一に向けての思いを共有したことにあります。私たち韓青が2015年の故国訪問から培ってきた、南側青年学生との連帯関係に最大限依拠する形で、今回13名もの青年学生を招請することができました。

前日の10月5日に南側メンバーの大半が成田空港に到着、その後、すぐに関東大震災の犠牲者を祀る遺跡地などをめぐるフィールドワークを行い、夕方には歓迎宴会を行いました。孫亨根（ソン・ヒョンゴン）6・15海外委員会委員長など、多くの先生・先輩方も駆けつけてくださり、南側の同志たちを熱く歓迎することができました。

そしてついに当日です。「統一実感」は3部構成となっており、第1部のパネルディスカッションでは、朝鮮半島の現在の統一情勢から、南側の青年たちの意識変化と統一運動の実践、私たちを在日同胞の課題を論議しました。

私は司会を担当させてもらいましたが、発表者の熱い発言の数々に、思わず司会の立場を忘れ聞き入ってしまいそうになりました。特に印象的で

あったのが南側の発表で、いわゆる「ヘル朝鮮」に希望を失っていた韓国の青年たちが、「板門店宣言」を目の当たりにしたときに未来に希望を見出し「統一したい」「北の人々と会いたい」という意識を持った青年たちが続々と増えていっている現状を聞くと、とても感動的で統一新時代をともに担っていく同志として非常に頼もしい印象を抱きました。



▲南側代表とともに祝杯をあげる青年学生協議会代表

その後も運動大会・ブルコギ交流会といったプログラムが進行し、最初はお互いに緊張気味だった在日の青年と南側の青年も一気に距離が縮まっていきました。行事が終わっても別れを惜しむ声が次々と起こり、参加者の一部はそのまま南側代表団の宿舎に行き、朝まで語り明かしました。

私が今回の行事で一番印象的だったのは、南側代表団で最年少の大学生が交流会で涙したことです。「私は統一運動を始めたばかりですが、このような厳しい日本の地で民族を守り、統一のために闘ってこられている方々を見ると、知らなかったことが非常に申し訳ないし、私も韓国に帰ったら、もっと頑張らないといけないと思いました」と涙ながらに話してくれました。それを見た時「ああ、この行事をやって本当によかったな」と感じました。南側の運動をみていると、その規模とパワーに圧倒されそうになりますが、「私たちも立派な統一運動の主体であり、誇りをもって闘っているんだ」ということを、彼女の姿を通じてあらためて気づかせてくれた気がしたのです。

今回の行事が今後の統一運動を担っていく青年学生にとって、とても大きな担保となったと思います。

「幼保無償化制度」の差別なき適用を

城北ハッキョを支える会 大村和子

今年10月から「幼児教育・保育無償化制度」が実施されました。しかし、日本各地にある朝鮮学校附属幼稚園は除外され、「幼保無償化適用」を求める運動が行われています。今号では、城北ハッキョを支える会の大村和子さんに「幼保無償化」除外の問題点などについて書いて頂きました。

「すべての子どもの中に朝鮮の子どもは入らないのか」「幼い子どもたちまでも差別するのか」「人としての問題、人権の問題としてとらえてほしい」「子どもたちが健やかに成長できる学びの場を奪わないで」「自分を育ててくれたウリハッキョで我が子も学ばせたい」「ハッキョを守りたい。つぶしたくない」。

「幼保無償化」の適用を求め、大阪府と大阪市に政府への働きかけを求める要請書を提出した時、大阪府内の各朝鮮初級学校附属幼稚園のおモニ（お母さん）、アボジ（お父さん）たちは涙ながらに訴えた。

5月10日「すべての子どもが健やかに成長するように支援するもの」と謳った「改正子ども・子育て支援法」が国会で成立し、10月から消費税を財源として

「幼児教育・保育無償化制度」が実施された。しかし、この制度から朝鮮学校附属幼稚園などの外国人学校幼児施設だけが除外された。全国の幼児教育、保育施設は55000施設、そのうち除外される各種学校認可の外国人学校88校のうち40校は朝鮮幼稚園である。

国は排除の理由を「各種学校は幼児教育を含む個別の教育に関する基準はなく、多種多様な教育を行っており、また児童福祉法、認可外保育施設に該当しないため無償化の対象にならない」としている。

朝鮮幼稚園は母国語を中心に幼児教育を行い、それ以外は日本の幼稚園と変わらない幼児教育を行っている。母国語を学び、民俗的アイデンティティを育む教育を受ける権利は、子どもの権利

条約をはじめ国際法上認められており、その権利実現のための措置を講ずることは、締約国である日本政府に課せられた義務でもある。

「高校無償化」制度排除（8月27日、最高裁は大阪と東京における裁判に対して上告を棄却し、子どもの学ぶ権利の機会均等と民族教育の保障を認めないという理不尽な決定を下した）。そして、今度は幼い子どもにまで「幼保無償化」制度から

除外するという。朝鮮学校に対し繰り返し露骨な差別・弾圧が行われている。

敗戦後、日本は朝鮮に対して行った侵略、植民地支配に対して誠実に過去清算をせず、東西対立の政治状況の中で戦争責任、戦後責任を逃れ、そのため植民地主義が戦前から継続しており、歴史の証人である在日朝鮮人への同化・排外主義

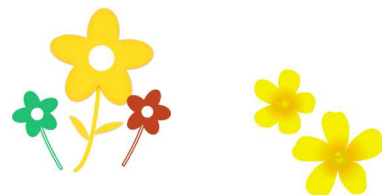
は連鎖として継続してきている。そして、ますます排外主義が高まり、朝鮮学校、在日朝鮮人への差別・攻撃は「官民あげて」というような様相を呈している。また、このことは日韓関係を悪化させてきた傲慢で卑怯な対韓政策にもつながる。

在日外国人の人権、「民族教育権」が保障される社会になる時、私たち日本人自身の人権も充分保障される社会となるだろう。

この社会に生きるすべての子どもたちの尊厳が平等に守られる明るい未来を切り開くために、諦めることなく、共に今後も努力していきたい。



▲「幼保無償化」適用など訴える大村和子さん



◆◆DVD紹介◆◆

安市城 (アンシツ)

グレート・バトル

今号で紹介する映画は、歴史アクション映画「安市城」です。私がこの映画を見てみようと思ったのは、高句麗の名将 楊萬春 (ヤン・マンチュン) 將軍 (映画の中では安市城城主) が主人公だったからです。

私が初めて楊萬春將軍を知ったのは歴史ドラマ「大祚榮 (テ・シ・ョヨソ)」に出てくる楊將軍です。ドラマの中では楊將軍は高句麗の將軍であるとともに、主人公の大祚榮の恩師として出てきます。私は楊將軍の人柄が好印象だったので映画も見てみようと思映画館に足を運びました。

物語は、朝鮮の歴史にも明記されている西暦645年、高句麗と唐が繰り広げた88日間におよぶ安市城の戦いを描いています。朝鮮半島の支配を目指す唐の皇帝太宗が大軍を引き連れ高句麗を攻め都の平壤を目指します。各地の城が陥落する中、楊萬春城主を中心

とする安市城の兵士と民は一致団結して唐軍と戦います。

映画で出てくる楊城主は若くてイケメン、自ら体を張って唐軍と戦い、知識も豊富、兵士や民の信頼も厚い文句のつけようがない城主です。誰が見てもカッコいい。

映画を見た後に知ったことですが、この映画、韓国では昨年の秋夕 (チュソク) 連休に上映され、観客動員数がトップでした。たぶん娯楽映画で、小軍が大軍を打ち負かす内容が痛快だったのでしょう。

場面のほとんどが戦闘シーンで、殺伐な感じもしますが、物語のラスト

では唐軍に攻め込まれた楊城主が、悩みに悩んだ結果、ある秘密兵器を登場させます。果たして何でしょう？11月中旬にレンタル開始です。ぜひご覧ください。(ソン)



◆◆行事案内◆◆

韓統連大阪本部講演会

今、韓日関係を考える

日時：12月1日(日) 午後1時30分 受付/午後2時 開会

場所：国労会館 (JR天満駅下車徒歩5分)

内容：講演「韓日関係の現状と課題(仮)」

講師：金昌五 (キム・チャウ) 韓統連大阪本部副代表委員

質疑応答 他

参加費：大人800円・青年学生500円

主催：韓統連大阪本部 TEL06-6711-6377

※朝米関係の進展など情勢の変化によって、名称を変更する可能性があります。ご了承下さい。

編集後記

10月27日の野遊会で10・4宣言に関するクイズをしました。事前に10・4宣言の全文を読みましたが、あらためて実現されていない部分が多いこと気づきました。具体的な事が明記されているのに進んでいません。早い時期に一つ、一つ実現させましょう。(ソン)